

(2) 平成18年11月24日

道へき・複連情報

第127号

## 第55回根室大会を終えて

北海道教育庁根室教育局長

岡田 一 憲



根釧原野を開拓した先人のたくましい精神と進取の気風を受け継ぐ根室の地で、第55回全道へき地複式教育研究大会根室大会が、「豊饒の海と緑の大地に生き根室の未来を拓く子らに豊かな心と確かな学力を」を大会スローガンに掲げ、全道各地から多くの先生方の御参加をいただき、成功裡に終えましたことを嬉しく思います。

また、根室へき地複式教育研究会におかれましては、昨年度から各市町ごとに推進組織を立ち上げ、それぞれが会場校の研究にかかわり、授業公開や協議等を通して、着実に教育実践を積み上げられており、これまでの御尽力に心から敬意を表します。

さて、教育改革が鋭意進む中、新しい義務教育の姿として、子どもたちがよく遊びよく学び、心身ともに健やかに育つことを目指し、教師が自信をもって指導に当たり、学校が生き生きと活気ある活動を展開する学校づくりが求められております。

このような中、本研究大会では、家庭や地域との連携を深め、子どもたちと先生方の温かな信頼関係の下、創意ある教育活動が展開されており、時代の要請に応える学校づくりに大きな示唆を与えたものと確信しております。

とりわけ、子どもたちが学び方を身に付け、自ら課題を解決する指導方法を工夫したり、恵まれた自然や地域の伝統・文化などを生かした体験的な活動を展開したりするなど、家庭、地域と一体となって、子どものよさや可能性をはぐくむ先進的な教育実践を発信しております。

各学校におかれましては、本研究大会での成果や課題を踏まえ、今後とも子どもたち一人一人の個性や能力を伸ばし、生涯にわたってたくましく生きる力を培う教育を推進されますよう御期待申し上げます。

結びになりますが、本道のへき地・複式教育の充実と複式教育に携わる方々の御活躍を祈念し、お祝いの言葉といたします。

## 根室に生きる子の姿を発信して

第55回全道へき地複式教育研究大会根室大会

実行委員長 相馬 豊



平成4年以来14年ぶりに道東（ひむがし）の地根室で開催されました第55回全道へき地・複式教育研究大会に、全道各地より700名に及ぶご参加を頂き、盛会に、しかも実り多い内容で無事終了できましたことに心より厚くお礼申し上げます。

根室複式教育研究連盟は一昨年より、組織や研究体制の整備から会場校選定に至るまで、町村合併や少子化による学校統廃合の大きなうねりの中で、困難な状況を克服しながら今大会の有り様を検討し、その中で会員相互の意識を高め、その強い絆を支えとし、責任の重さを感じながら準備を進めてきました。途中、組織・研究機関・団体の人事異動による交代もありましたが、どうか軌道に乗せて進めることができました。

へき地・複式校に通う子ども達に、新たな時代を豊かな心でたくましく生き抜く力をつけるために、また、つぶらな瞳の子、明るい心の子、元気な笑顔の子らの夢を、意志を、知恵を育てるために、大会スローガン「豊饒の海と緑の大地に生き、根室の未来を拓く子らに豊かな心と確かな学力を！」を合言葉に、今後厳しくなることが予想される複式校の状況を念頭に、「子どもが変わる、教師が指導に自信を持つ、地域・保護者からの信頼を勝ち取る」ことを目標に準備を進めてきました。何よりも二日目に行われた1市4町8会場での全体会・分科会では、児童中心の授業づくりや各会場でお見せした地域父母を巻き込んだアトラクション、大会の様子を克明に紹介する「速報」の発行等にその意気込みが感じられましたし、授業づくりから授業公開、研究協議を経る中で上記の目標が確実に達成されたものと確信しています。

会場校の先生方にとっては大きな財産となりましたし、サポートしてくれた協力校の先生方にとっては、これからのへき地複式教育を進めていく上での大きな自信につながりました。今回の研究大会を契機に、根室複式教育研究連盟が総力を挙げて奮闘してきた強い絆を下に、更に、へき地・複式教育を進めていこうと、気持ちを新たにしているところです。

結びになりましたが、本研究大会の開催にあたり、北海道教育委員会をはじめ、根室教育局、市町教育委員会等、教育関係諸団体や大会開催に関わって下さった多くの方々から頂きました温かいご支援・ご指導に厚く感謝申し上げます、お礼の言葉と致します。